

「米軍再編」と「防衛汚職」はメダルの裏表

欲ばりな小冊子なのである。「軍事利権」と「米軍再編」、さらに「恒久派兵法」をたった四〇ページに収めてしまったのだから、『米軍再編』と『防衛汚職』はメダルの表裏であり、一体化して進展して(第二章)おり、昨秋いらいの防衛利権に関する報道をおもいおこしつつ読んでいると、その構図が浮かび上がる、というわけだ。春以降の運動を組みたてる「参考書」になるので必読。

第一章 沖繩・グアムの米軍再編と防衛利権

第二章 「思いやり予算」・「米軍再編予算」と「防衛汚職」

第三章 軍需汚職の深い闇

第四章 特措法から恒久派兵法へ

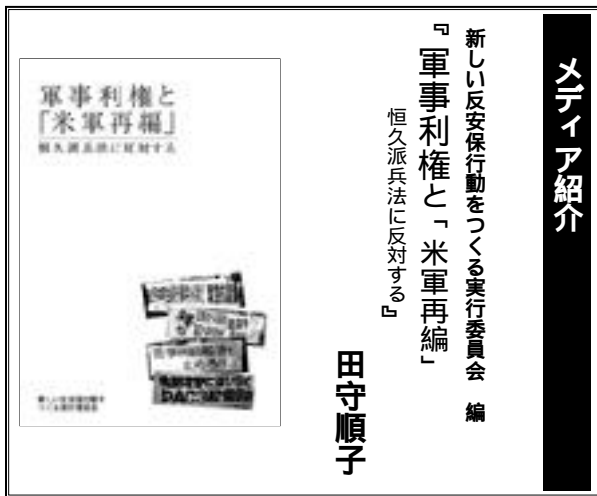
この四つのパートで構成されているが、通読するとそれぞれが繋がりがあっているのがわかる。私としては、第二章から読むのがよいと思うのだが……。「沖繩密約」に始まる「聖域」扱いの対米軍事支出が「防衛利権」を生み出す源となっていることを再確認した。「聖域」は金丸信によって名付けられた「思いやり予算」によってさらに膨れあがり、具体的内容も積算根拠も不明な巨額の金のまわりに、利権を求める輩が続出するのは当然だろう。私たちが払った税金が際限もなく「聖域」に注ぎ込まれているわけでもうっ！ 腹が立つ。「いつまでこんな米軍に金が流れ込む」「聖域」をつくる日米安保体制の下に、私たちは生き続けなければならないのか(第二章)。同感だ。

沖繩・辺野古新基地建設(普天間の移設)なんて嘘だからね(第一章)のも、兵隊のグアム移転の裏で守屋前防衛事務次官が動いていた(第一章)のも、

メディア紹介

新しい反安保行動をつくる実行委員会 編  
『軍事利権と「米軍再編」』  
恒久派兵法に反対するの

田守順子



腹立たしい限りだが頷ける。グアム移転費用七〇〇億円、米軍再編全体では三兆円ともいっ金動くのだから。その後を付記すると、一月に幹部を更迭して「守屋色」を一掃したという防衛省だが、二〇一四年の新基地完成を目指す姿勢は変えず、つい先日環境アセス調査に着手した。これに先立ち、凍結していた名護市への米軍再編交付金の交付を、こともあろうに岩国市長選の投票日前日に公表した。さらに新市長のもと艦載機受け入れを表明した岩国市にも……。

第三章では、軍需専門商社・山田洋行とともに日米平和・文化交流協会の秋山直紀専務理事の疑惑がとりあげられているが、この人物は金丸信と交流があったといつ。とすると「恒久派兵法」制定をもくろむ小沢一郎とも、と考えてしまつ。秋山が仕切る「日米安保戦略会議」は「国内の政財界を繋ぎ、日米の軍事交流(売買)推進期間」なのだから、そこに連らなる政治家、軍需産業の名前はすっかり記憶しておこつ。

防衛利権に集まる魑魅魍魎たちは、米軍再編によって自衛隊を米軍に従属的に一体化させようという姿勢でもある。海外派遣を「本来任務」に格上げし、次は恒久派兵法だつて!? 春の夜は悪夢に乗っ取られそつだ。もうッ！ この小冊子読んだあとは行動よ。四月六日、防衛省「人間の鎖」へ！

(たもり・じゅんこグループ 武器をつくるな！ 売るな！)

発行：新しい反安保行動をつくる実行委員会

二〇〇八年三月一日刊/A5判/四〇ページ/頒価 四〇〇円

問い合わせ先：東京都千代田区三崎町3-1-18 市民のひろば気付

電話&FAX: 03 52775 5989